

第3章 流域の社会状況

3-1 土地利用

梯川流域の土地利用状況は、山地等が約70%、農地等が20%、宅地等市街地が約10%となっている。

また、流域関係自治体の土地利用状況の経年的な推移は、宅地の占める割合が増加傾向にあり、山林及び農地面積の占める割合は減少している傾向にある。

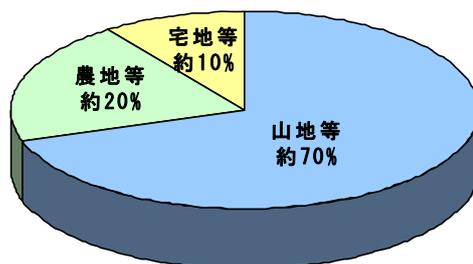


図3-1 梯川流域の土地利用面積割合

資料：国土数値情報

土地利用3次メッシュデータ(平成9年)に基づき集計

【梯川流域の土地利用変化】

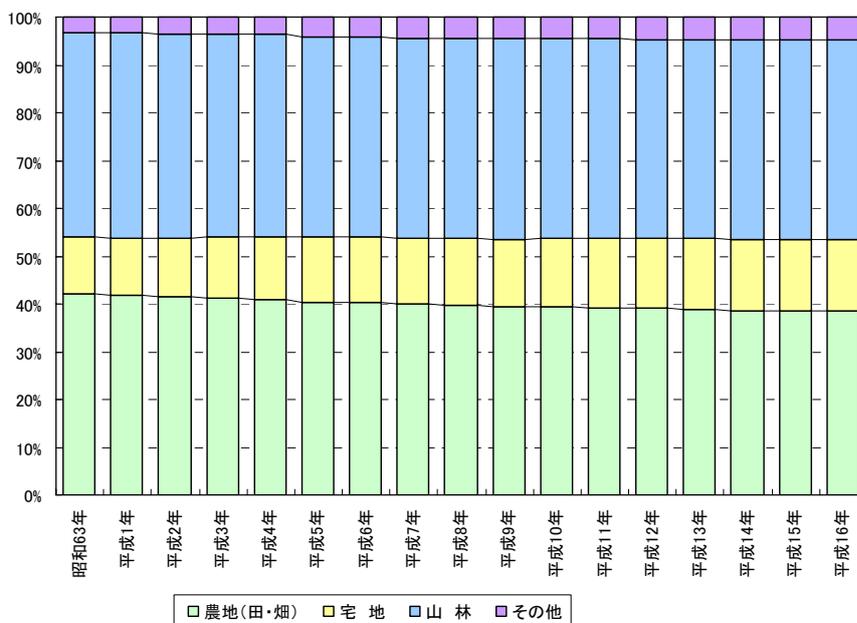


図3-2 流域関係市町の土地利用状況の推移

出典：石川県統計書

(流域自治体として、小松市、白山市(旧鳥越村)、能美市を対象とした)

3-2 人口

梯川流域の関係市における総人口は約 16 万人(平成 17 年国勢調査により集計)である。

梯川流域の関係市における過去 40 年間の人口及び世帯数の推移は図 3-3 のとおりであり、人口は過去 40 年間で約 1.2 倍に増加している。一方で世帯数は、約 1.8 倍の増加であり、核家族化が進んでいることがうかがえる。

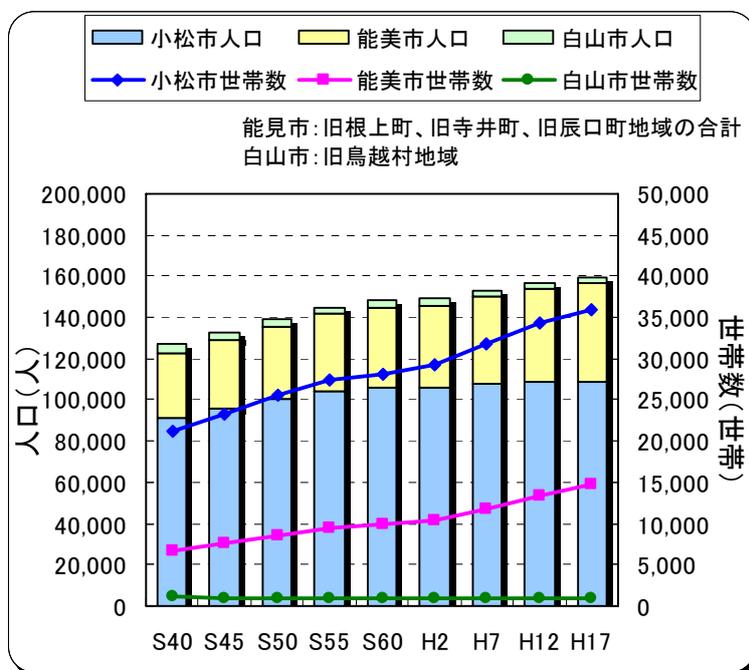


図 3-3 人口・世帯数の推移

出典：国勢調査報告 ※

表 3-1 人口・世帯数の推移

■ 梯川流域関係市町村の人口の推移

市町村名	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
小松市	91,163	95,684	100,273	104,329	106,041	106,075	107,965	108,622	109,074
能美市	旧根上町	11,418	12,745	13,665	14,141	14,423	14,268	14,562	15,102
	旧寺井町	10,877	11,678	12,483	13,103	13,678	14,163	14,358	15,996
	旧辰口町	8,758	8,510	9,160	10,009	10,960	11,503	13,113	15,104
	計	31,053	32,933	35,308	37,253	39,061	39,934	42,033	47,202
白山市(旧鳥越村地域)	5,244	4,353	3,904	3,566	3,421	3,378	3,256	3,154	3,002
合計	127,460	132,970	139,485	145,148	148,523	149,387	153,254	156,853	159,278

■ 梯川流域関係市町村の世帯数の推移

市町村名	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
小松市	21,199	23,284	25,471	27,416	28,144	29,224	31,778	34,306	35,889
能美市	旧根上町	2,497	3,032	3,344	3,586	3,607	3,687	3,944	4,984
	旧寺井町	2,377	2,643	2,948	3,259	3,457	3,692	3,909	4,952
	旧辰口町	1,893	1,920	2,167	2,539	2,854	3,002	3,874	4,901
	計	6,767	7,595	8,459	9,384	9,918	10,381	11,727	13,382
白山市(旧鳥越村地域)	1,060	976	928	886	858	848	820	831	830
合計	29,026	31,855	34,858	37,686	38,920	40,453	44,325	48,519	51,556

※注 世帯数は、昭和55年までは普通世帯と準世帯の合計、昭和60年以降は一般世帯と施設等の世帯の合計である。

出典：国勢調査報告 ※

※ 平成 17 年データは、国勢調査の速報値である。

3-3 産業経済

梯川流域の関係市の産業を就業者数で見ると第一次産業 2.6%、第二次産業 42.4%、第三次産業 55.0%と第二次産業への就業率が高く、工業都市としての特徴を示している。下表に産業分類別人口の変遷を示す。同表より全ての流域内市において第一次産業就業者数が減少していることが分かる。第二次産業就業者数は平成7年までは増加傾向にあったが平成12年時では伸びが鈍化傾向にある。また、旧根上町、旧寺井町、旧辰口町において第三次産業の就業者数が大きく増加している。

表 3-2 流域内産業分類別人口変遷

市町村名	人 口												
	第一次産業				第二次産業				第三次産業				
データ年次	S60	H2	H7	H12	S60	H2	H7	H12	S60	H2	H7	H12	
小 松 市	2,549	2,031	1,902	1,500	23,792	24,463	24,687	24,141	28,184	29,765	32,660	32,667	
能 美 市	旧根上町	319	252	266	189	4,055	4,270	4,235	4,084	3,082	3,213	3,580	4,089
	旧寺井町	294	242	258	152	3,356	3,658	3,601	3,621	3,385	3,704	4,159	4,519
	旧辰口町	330	257	208	174	2,750	2,887	3,126	3,062	2,517	2,791	3,421	3,905
	計	943	751	732	515	10,161	10,815	10,962	10,767	8,984	9,708	11,160	12,513
白山市(旧鳥越村)	431	406	343	185	851	782	689	588	715	748	753	773	
合 計	3,923	3,188	2,977	2,200	34,804	36,060	36,338	35,496	37,883	40,221	44,573	45,953	
比 率 (%)	5.12%	4.01%	3.55%	2.63%	45.43%	45.38%	43.32%	42.43%	49.45%	50.61%	53.13%	54.94%	

※データ年次は、市町村要覧において産業別分類人口を算出する際に基礎とした国勢調査の年次を示す

出典：全国市町村要覧

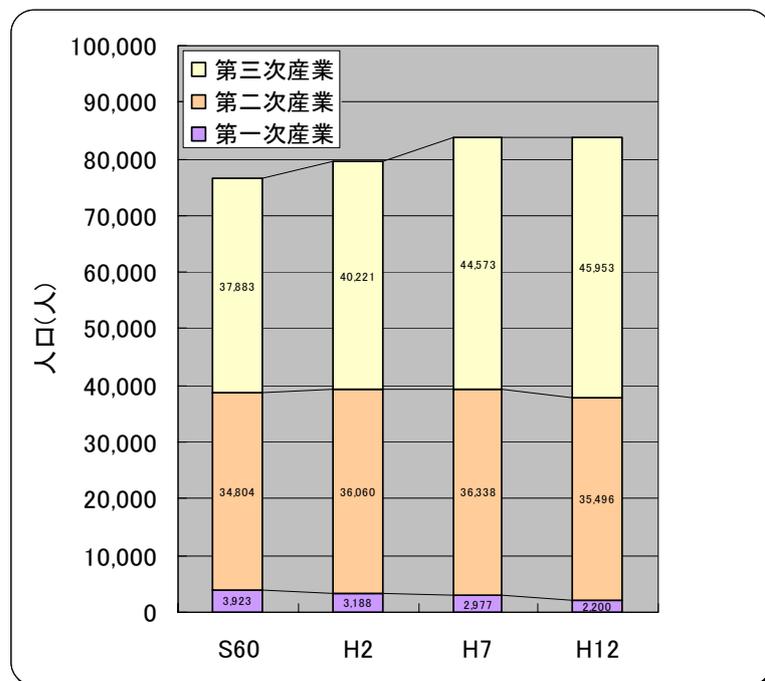


図 3-4 流域内産業分類別人口変遷

特徴的な第二次産業として、小松市の従業者数の32%を占める一般機械器具製造業、28%を占める加賀絹、小松^{りんず}縮子、ちりめんなどの伝統的絹織物から発展した合成繊維を中心とした繊維工業などがある。また、特徴的な伝統産業として国指定伝統工芸である九谷焼^{くたにやき}があげられる。

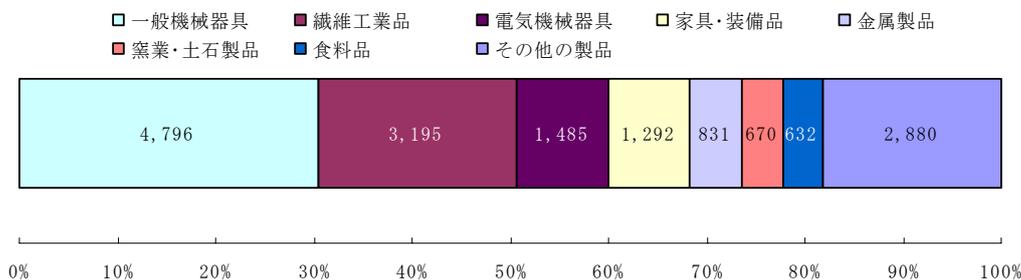


図 3-5 小松の工業の従業者数

出典：平成 15 年市町村勢要覧

また、かつては郷谷川の上流に尾小屋^{おごや}鉱山があり、銅を中心に鉛・亜鉛・金を生産していた。

梯川上流部は金・銅などの鉱物資源に富み、古くは天和 2 年(1682 年)に支川郷谷川上流の尾小屋で採鉱が始まった記録が残っている。明治 13 年(1880 年)に旧加賀藩家老横山隆平が尾小屋鉱山の採掘に参加し、翌明治 14 年(1881 年)に横山隆平の単独経営により、尾小屋鉱山が始動してから著しく発展し、大正 8 年(1919 年)には尾小屋鉄道が鉱物の輸送を始め、昭和 2 年(1927 年)には、尾小屋鉱山株式会社が設立された。



昭和 6 年(1931 年)からは、日本鉱業株式会社が経営を受け継ぎ、波佐羅、五国寺大谷、金平、岩淵などの鉱山を合併吸収し、一時は従業員が 1,000 人を超える日本有数の鉱山として隆盛を極めたが、昭和 37 年の貿易自由化で不採算となった。その後も北陸鉱山株式会社が小規模に操業を続けたが、昭和 46 年(1971 年)に全山閉山となり、約 300 年の歴史に幕を下ろした。また、昭和 52 年(1977 年)には国鉄小松駅と尾小屋の間を結んでいた軽便鉄道の尾小屋鉄道も廃線となった。

鉱毒問題については、明治 39 年(1906 年)に五国寺の住民が大谷鉱山と鉱毒補償契約を行っている。昭和 43 年(1968 年)には御茶用水取水口から基準値(0.01ppm)を超えるカドミウム濃度 0.011ppm が検出され、昭和 45 年(1970 年)には、金平・金野・花坂・五国寺・正蓮寺五町の土壌・産米がカドミウムに汚染されていることが判明し、大きな問題となった。昭和 47 年(1972 年)、48 年(1973 年)も調査が進められ、住民の健康への影響は確認されなかった。

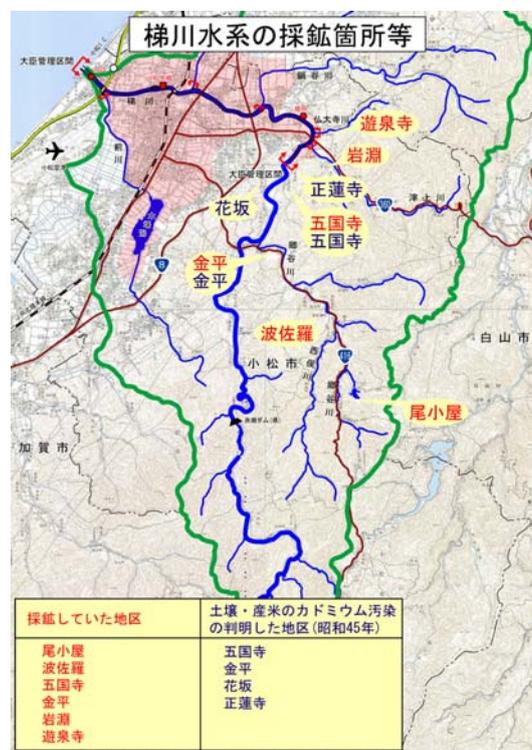


図 3-6 梯川流域の採鉱箇所及び土壌・産米汚染判明箇所位置図

石川県は昭和 52 年(1977 年)から公害防除特別土地改良事業により、約 460ha(深さ 20cm)を対象に客土による汚染土壌の入れ替え、水路整備等の対策をはじめ、昭和 63 年(1988 年)に完了している。その地域は主に御茶用水と軽海用水のかんがい地域で、梯川左岸の一体であり、現在、梯川全域河川水において環境基準値を下回り、重金属類は確認されていない。

なお、汚染源である尾小屋鉱山の鉱害防止対策は、昭和 47 年(1972 年)から日本鉱業株式会社及び北陸鉱山株式会社等が、操業中に利用した鉱山施設について、坑口、ズリ堆積場、沈殿池等の耐圧密閉壁工、土留め工、水路工、覆土工、植栽工等の鉱害及び危害防止工事を実施している。

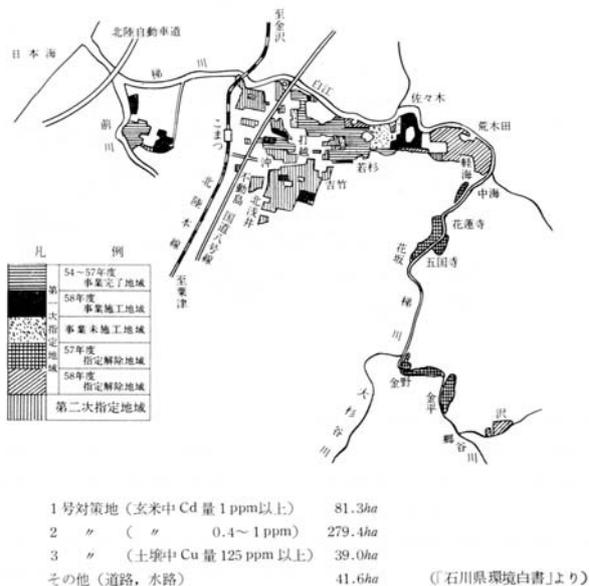


図 3-7 梯川流域農用地土壌汚染対策地域

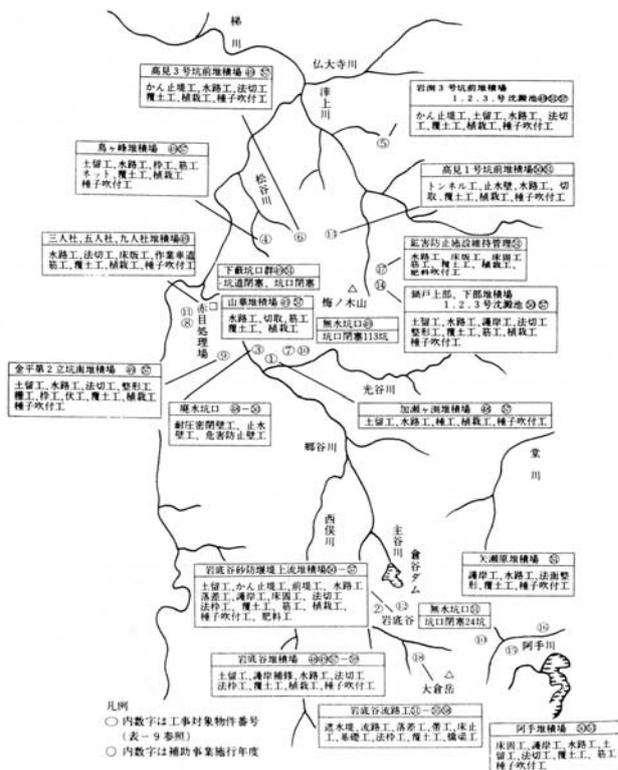


図 3-8 尾小屋鉱山鉱害防止補助事業施行位置図(堆積場、沈殿池)

3-4 交通

梯川流域圏には、JR北陸本線(大正2年(1913年)全線開通)、北陸自動車道(昭和63年(1988年)全線開通)、一般国道8号、国際路線(昭和54年(1979年):小松~ソウル国際定期便就航)をもつ小松空港などがある。

一般国道8号は、新潟市から京都に至る延長560kmの主要幹線道路で北陸、関西、中京経済圏を結ぶ大きな役割を担っている。近年の交通量の増加によるラッシュ時の慢性的な渋滞解消のため、国道8号小松バイパス事業が計画され、平成15年(2003年)3月に完成している。

また、国際路線をもつ小松空港は、民間航空のほかに航空自衛隊小松基地となっており、防衛拠点としても極めて重要な位置づけにある。

この様に梯川流域圏は重要な広域交通網が集中している。

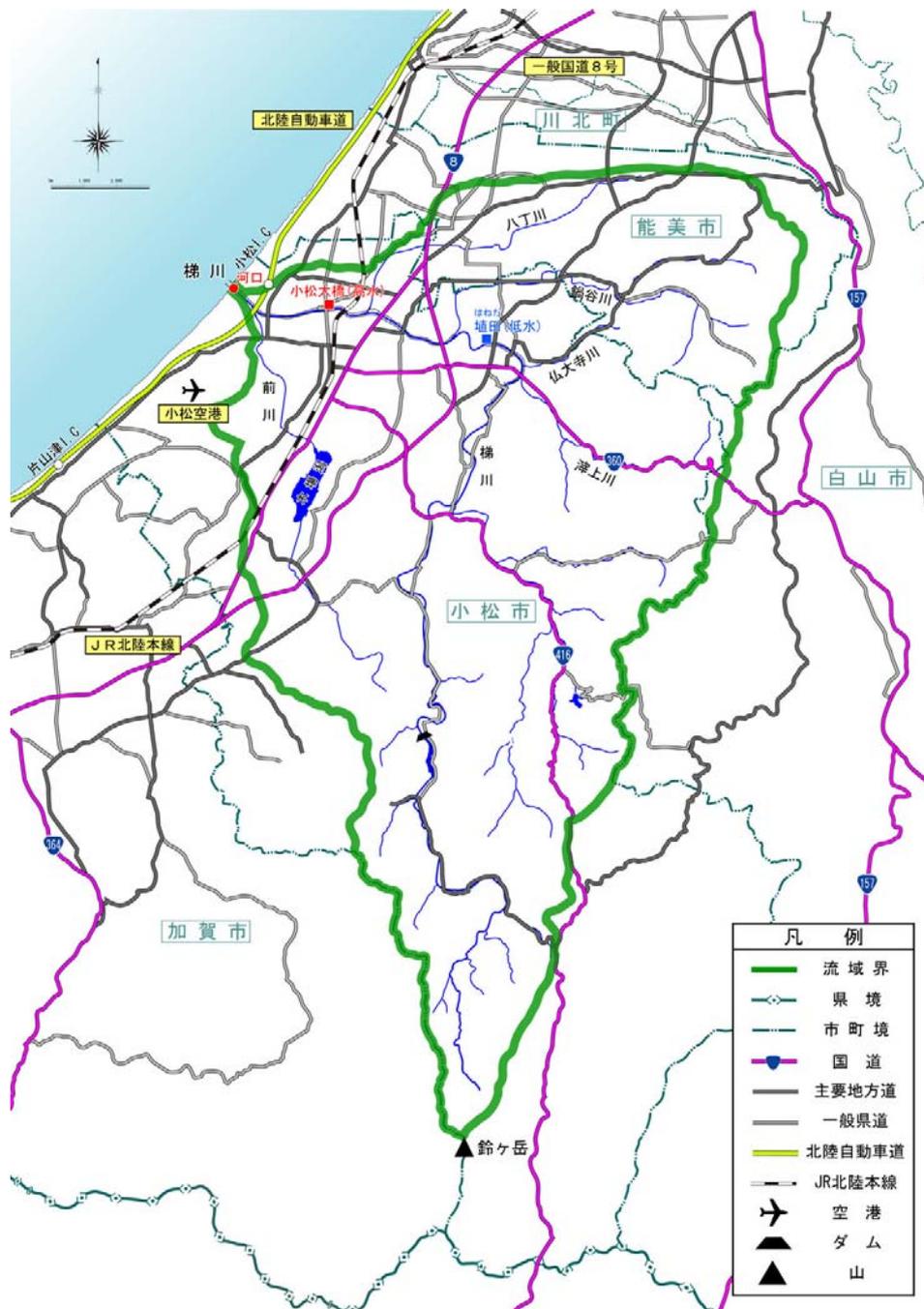


図 3-9 梯川流域主要交通網